

共同利用・共同研究課題の研究成果を発表するに際しての謝辞のお願い

○平成 28（2016）年度に始まった共同利用・共同研究拠点の第 2 期では、文部科学省の方針転換により、学術論文については、拠点に所属する者（当拠点であれば、①AA 研所員、②所員を指導教員とする大学院生および③ポスドク等の研究員）を執筆者に含まない場合、共同利用・共同研究による成果である旨の Acknowledgement（謝辞）を付して発表された論文しか、拠点における共同利用・共同研究課題の研究成果として認められないことになりました。平成 30（2018）年度に実施された共同利用・共同研究拠点の中間評価はこの方針に則って行われ、2022 年度に予定されている期末評価でも、この方針を踏襲した評価結果が拠点への予算配分に反映されることになっています。

つきましては、研究会で報告した内容をはじめ、共同利用・共同研究課題の研究成果を発表する場合には、その旨を必ず表示していただくようお願いいたします。

○謝辞（Acknowledgement）の記載例は次のとおりです。

1. 本研究はアジア・アフリカ言語文化研究所の共同利用・共同研究課題「○○○」の成果の一部です。

This work/paper/book is a product of the ILCAA joint research project “○○○”.

2. 本研究（の一部）はアジア・アフリカ言語文化研究所の共同利用・共同研究課題「○○○」の支援を受けています。

This research was (partially) supported by the ILCAA joint research project “○○○”.

3. 本研究（の一部）はアジア・アフリカ言語文化研究所の共同利用・共同研究課題「○○○」によって行われた研究に基づいています。

This research was (partially) based on the work conducted in the joint research project “○○○”, sponsored by ILCAA.

This work/paper/book is based on the research activities of ILCAA titled “○○○”.

4. この論文（の一部）はアジア・アフリカ言語文化研究所の共同利用・共同研究課題「○○○」、第 x 回研究会(x 年 x 月 x 日)での発表に基づいています。

(A part of) the draft of this paper was presented at the meeting of the ILCAA joint research project “○○○” on ‘date’.

5. 本研究はアジア・アフリカ言語文化研究所の共同利用・共同研究課題「○○○」および JSPS 科研費 JP△△△の成果の一部です。

This work/paper/book is supported (IN PART) by ILCAA joint research project “○○○”, and JSPS KAKENHI Grant Numbers JP△△△.